



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/22 (月)	▲ 700	▲ 13,500	▲ 14,200	短国発行 (3M・1Y)	国債補完供給 ▲ 100	国債買入 + 11,900 社債等買入 + 1,500	欧：ラガルトECB総裁、基調講演
2/23 (火)					祝日		米：パウエルFRB議長の議会証言(上院銀行委員会)、消費者信頼感指数(2月) 欧：ユーロ圏CPI(1月)
2/24 (水)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日：日銀営業毎旬報告(2月20日現在) 米：パウエルFRB議長の議会証言(下院金融委員会)
2/25 (木)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000	短国発行 (6M)	共通担保 ▲ 3,600		米：GDP(4Q改定値)、新卒失業保険申請件数(20日終了週) 欧：EU首脳会議(26日まで)、ユーロ圏消費者信頼感指数(2月)
2/26 (金)	▲ 800	+ 9,800	+ 9,000		新型コロナ ▲ 182,900		G20財務相・中央銀行総裁会議(27日まで) 日：東京都部CPI(前年比)(2月)、鉱工業生産(前年比、前月比)(1月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初493兆1,100億円から始まった。増加要因として15日のCP等買入オペ、16日の国債買入、17日の国庫短期証券買入オペがあったが、減少要因となる国債発行が17日、19日にあり、週末19日には493兆5,500億円と週初対比ほぼ横ばいで越週した。無担保コールON物加重平均金利は、積み最終日で調達意欲が強まり、週初15日に2021年1月以来約1か月ぶりの高さとなる△0.008%（確報値）を記録した。積み期の変った16日以降は資金調達ニーズがやや落ち着き、週末19日にかけて△0.022%～△0.019%の間で推移した。内閣府が15日発表した2020年10～12月期の国内総生産（GDP）速報値は、物価変動を除く実質の季節調整値で7～9月期から3.0%、年率換算で12.7%の増加となった。一方2020年通年の同値は4.8%の減少で、11年ぶりのマイナス成長となった。来週の主な予定は、国内では東京都部消費者物価指数（CPI）の公表（26日）や鉱工業生産（前月比・前年比）の公表（26日）などがあり、海外ではパウエルFRB議長の議会証言（23日・24日）米国GDP（4Q改定値）の公表（25日）などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	△0.010 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

### <レポ>

足許GC取引は、積み初日となる16日受渡しで△0.09%近辺の出合い、その後は週を通して△0.10%～△0.085%のレンジで取引された。短国1Y・3Mの発行が重なる22日受渡しでは、△0.08%まで上昇した。SC取引は2年409～421回債、5年127～146回債、10年331～361回債、20年169～175回債、30年63～69回債、40年12～13回債などに引合いが多く見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
CP 3M	△0.050 ~ 0.00

### <TDB>

18日の1Y973回債(2/21償還)の入札は、最高落札利回り△0.1221%(前回債△0.1108%)、平均落札利回り△0.1221%(同△0.1128%)となり、入札後△0.14%～△0.135%の出合が見られた。19日の3M974回債(5/31償還)の入札は、最高落札利回り△0.0986%(同△0.0949%)、平均落札利回り△0.1020%(同△0.0979%)となり、入札後△0.101%近辺の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.11%～△0.108%のレンジ、6M物が△0.116%近辺、1Y物が△0.135%近辺で取引された。

### <CP>

今週の入札発行総額は約6,800億円で、週間償還額（約4,300億円）を上回った。発行市場は、5・10日発行と陸運業や食品業等の複数業態での大型案件が重なり、活況となった。発行残高は先週末の25兆1,842億円から、18日時点で25兆3,386億円に増加した。発行レートは、概ね先週と同様の出合いであったが、発行頻度が低い銘柄等には積極的な購入需要があり、△0.06%近辺での出合いも散見された。来週の週間償還額は月末日の約1兆1,800億円を含み、約1兆5,700億円程度となっている。発行市場は、月末の大量償還に対し償還超が予想されるものの、発行体の資金調達ニーズは相応にあると思われ、活況が予想される。発行レートは、横這い圏内での出合いを予想するが、引き続き、期越物や発行頻度の低い銘柄等については、強いマイナス圏内での出合いと思われる。22日に、CP等買入れオペが6,000億円程度オフアールされる予定。